

令和元年度 第3回（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会
議事概要

1. 開催概要

日時：令和元年11月20日(水) 10:00～11:50

場所：カナモトホール（札幌市民ホール）2階 第1会議室

次第：

1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3 議事

「（仮称）札幌市建設産業活性化プランの取組について」

・プランの施策項目

・プラン案

4 閉会

出席者・出席機関：

委員：別添「（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討委員会委員構成」のとおり

（委員変更：建設どさん娘の会 本庄会員、代理出席：建設どさん娘の会 菊川会員）

札幌市：建設局、財政局、都市局

2. 議事録

(1) 開会

(2) 挨拶（小林建設局長）

これまでこの活性化プランについては検討委員会を2回、検討部会を2回行いまして、様々な団体のみならずから貴重なご意見をたくさんいただけてきました。今日はそれらの意見を踏まえて、これまで、メニューの項目のみ、タイトルのみだった施策について、内容も一歩踏み込んだ形の素案を今日ご提案したいと考えています。

本日貴重な意見をいただいて内容の見直し、充実を図りたいと思っていますので、皆様にはご遠慮なく忌憚のないご意見をお寄せいただけますようお願いいたします。

予定ではもう一度の委員会を予定しておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 議事

・配布資料及び委員確認、委員変更及び代理出席者紹介、スケジュール案の提示

【説明事項】

・プランの施策項目

・プラン案

【説明事項に対する意見等】

< 建設産業のPR について >

- ・取組目標1の建設産業のPRの推進の中で他の機関と連携を図っていくと効率がいいと思う。機関の連携という項目があるが、PRは開発局、道庁、現場が色々な取組をしていると思うので、併せて連携を取りながらやってはどうかと思い、本文のどこかにそういうことが書かれたらやりやすいと思う。
- ・(具体的な連携として)同じ学校に行っていたなど重複する場合があると思うので、お互い集まって、そういうものをなくす。あとは現場を、例えば札幌市が主催する場合でも開発局発注で札幌市内のいい現場があればそちらを見てもらうなど。
- ・実質的に業界団体でもいろいろな取り組みをされていて、受け手、高校生にとっては同じようなことを何回もいろいろな主催でやられると効率が落ちるし、せっかく頑張っても効果が上がらないという重要な指摘だと思う。
- ・本文に書くのは重要だが具体的にどう取り組むか。年度当初に行政機関プラス関係団体でお集まりいただいて、協力できるものは一緒にやるとかそういう仕掛けがうまくできるといい。
- ・建設産業のPR事業の推進の関係で、高校生・大学生等を対象にするということで、土木学科の学生を対象にしていかなければならないが、中学生を対象にするというところをもう少し入れてほしい。
道庁と連携して今後進めたい。
- ・業界団体から工業高校の間口を広げてほしいという要望があるが、工業高校の土木学科のクラスを増やすのは非常に厳しい。一方で、これ以上定員を減らしてしまうと土木のクラスがなくなる可能性があるので、競争倍率が下がらないようなPRの強化を市としてもやっていただきたい。
- ・連携や協力はすごく大事だと思っていて、札幌市と関係団体など、色々な組み合わせでそれぞれやっていることも効率よくできるのかなと思う。アイデアや各行政のセクションでやっていることを調整会議のような形で、どこが受け持つとか、この地域でここを対象にという一連の整理ができると協力しやすいし、状況が分かれば色々考えられると思っている。
- ・道と札幌市の共催で建設産業ふれあい展を毎年冬休みにチカホで行っているが、例えば鉄筋加工や塗り壁を小学生中学生の方に体験していただいて、昨年は延べで1万6000人参加していただいた。アンケートを見ても大変楽しかったとか、面白かったという意見をいただいているので、こういうイベントをこれからも継続して続けていきたいと思う。

<建設産業のPRのうち、親御さんも含めた働きかけについて>

- ・札幌市内の現場近くの中学生に、授業の一環として、建設業ではこういうことをやっていると見ていただく現場見学会をやったこともある。例えば、ミニバックホウなどの重機操作を体験したり、建設業の一端に触れていただけのは可能ではないかと思う。学校の考え方にもよると思うが、市の教育委員会等と連携しながら何か模索できるのではないかと思う。
- ・中学や高校、大学に広めたいということだが、ちょっと前まで建設業界は就職口がないと思われていた時期が結構長くあった。実際は、ここ数年の大学の土木系学科の就職率は大学の中では一番高い。今はお子さんも親の意見を聞いて就職先を決めることが大きく、就職先があり、その就職先は将来も安定して継続するとか、そういうイメージをきちんと親御さんに伝えないと、中学生も見向きもしてくれないということを感じている。

- ・今中学生でもインターンシップといってどのような仕事があるのか、どのような学びがあるのかやってきたりする。そういう機会をとらえて中学生に色々な仕事の話をすることはできるのではないかと思う。
- ・北海道の中で地域に貢献して仕事をしたいという層に向けて、こういう仕事があって、こういうふうに求められ、持続可能で、IT化やAI化が進んでも人間の仕事としてとても重要で、これからは週休2日になって働きやすくなるなどの情報を親御さんに伝える工夫していただくと効果が上がるのではないかと思う。
- ・医療系の進学先が今非常に多いが、実際の現場は過酷で離職率も高いけれども、資格を持って就職安泰というイメージで増えてきている。これから医療系の就職先はなくなるかもしれないのに、そういう事態になるのは理解されていない。
- ・親御さんたちは子供に対して、建設産業に行っても安泰で、親のそばで暮らしてくれるという要望があるから、北海道内や地元札幌の仕事として有望だということを伝えていくのは結構いいのではないかと感じる。
- ・全道の開発局も道庁も、全道の地元企業と連携して、各地方で現場見学会をやっているが、小学生だと保護者も一緒に来てくれて、アンケートを見ると、建設業のイメージが悪かったけれども全然違うことが分かったとある。また、泥まみれになりながら働くイメージだったが、建設会社の元請けであれば事務所で現場を見ながら事務処理をしたり、指示をしたりする仕事だというのは、親御さんは驚いている結果が多かった。
- ・北大でもOBと親御さんに声をかけて、各学科で説明や懇親会をする取組を4~5年前からしているが、OBよりも親御さんの方が多く、結構遠方から来られる親御さんもいる。中学校の時点では親御さんも含めた取組みや、生徒向けだけではなく親御さんにも共感を得られるPR、広報を考えなければいけない。
- ・夕方の情報番組で、キャンペーンみたいな感じで、継続的に建設業界が有望であるということ番組として面白く情報もたっぷり入れて、定期的に取り上げていただく。そういうのが意外に浸透していくのには効果的ではないか。

< 女性活躍を通じた魅力発信の強化 >

- ・電気工事士や建築士の女性の方を何人が知っていて、いい仕事をしているが、後に付いてくる人がいない。PR、セミナーなどをやったらと言うとそのような暇はないし、恥ずかしくてできないと言われる。
- ・北海道で、現場で資格を持っている女性がセミナーとかに出てきてPRする方法はないのだろうか。女性が現場で、第一線でやっているということを何とかPRできないだろうか。
- ・これについて、中学生が職業体験で来ていただいたことがあったので、そのような場を増やしていただけたらいいのかなと思う。
- ・資料3の基本方針あたりに女性が働ける産業みたいな言葉が一言あってもいいのではないか。
女性活躍について第1回の検討委員会でもご意見をいただき、基本目標の1に「これからの建設産業を支える担い手の確保・育成と女性活躍の推進」ということで修正したのと、この目標を一番上に持ってきたのがそういったことになる。
- ・全ての企業がプレーヤーとなるというその中身についても若干方針で触れていただくのもいい

かもしれないという感じはする。

- ・実際に女性の建設業に携わる人は増えているか。ゼネコンや専門工事業者とか全然違うかもしれないが、札幌市の場合は、従事者は増えているか。

札幌市のデータではなく日建連がまとめた全国のデータだが、5年間で比較して2013年度に建設業の女性技術者が11,000人だったのが、2018年度には18,000人と1.6倍に増えている。また、女性の技能者は82,000人、1.3倍からの104,000人に増えている。

- ・電気が建設産業全体でも一番遅れていると思っている。業界広報誌の取材で、女性の座談会をやろうということになったが、3名集めるのに苦労し、一人は人事担当、一人は営業、現場経験をしていたけれども今は設計業務に携わっている人で、技術者のレベルでは集まらなかった。技能者はもう少しいると思うが、10人も20人もいないかなというのが電気工事の実態である。土木は結構現場で技術者がいる。
- ・女性で、実際動けて要望に応えられる技術的な人がいるかという微妙な気がする。現場に従事する技術者もいればコンサルタント業務の人もいて、現場を引退して内業に従事している人、多岐にわたっているが、業界全体では増えているのかなと。学生も実際増えている印象がある。

<業務の効率化に関する取組について>

- ・先日、土木系の学生に対して役所の方とゼネコン、コンサルの方が集まって学生と色々対話をしたが、コンサルタントに対して学生は、年度末は大変な残業続きで大変だと思っていたけれども、働き方改革以降そういうイメージとは実際違うということが学生も分かって、これだったら少し安心してコンサルに行きたいという学生がいる。働き方改革は企業として苦しいが。
- ・それは役所において、工期の設定、年度末の納期は分散してもらおう。そういう願いをしながら、いかに働き方改革の法令を守れるか取り組んでいる。
- ・その辺が働き方改革以降、そういう一般のイメージの方が厳しいというのが残っていてというのがあった。その辺が多くの人に伝わるのが重要だと思う。

<建設産業の担い手確保等の取組に対する支援について（人材教育）>

- ・年齢の若い人をどんどん入れたいけれども、世の中どこもすごい争奪戦をやっていて、有望な人が集まりづらくなっている。一人一人の職人、技能者がいくつか資格を持つとか、いくつか仕事ができるかというのがいいのかなと考える。現場の代理人に聞くと必ずしも多能工がいいわけではないという話があるが、一人の方にいくつかの技術技能なりをやっていただく多能工化の勧めも必要かと思う。
- ・技術も色々資格がないと現場代理人になれない。その技術を付ける、チャンスがもっとあるといい気がする。特に女性はせっかく育ってもなかなか現場代理人までなるのは大変なようなので、もう少し教育の機会を増やしてあげられないか。
- ・札幌はそういうことはないが、地方では普通高校の卒業生を技術者・技能者に仕立て上げなくてはならないということで、高校を卒業後、会社に入ってから技術者教育をして、いろいろな資格を取ってもらう仕掛けを地域で苦労してやっているというのがある。札幌は工業高校や色々な大学もあるので地方とは違うかもしれないが、普通高校を出た方でも、努力していただければ技術者になれる道というのにも必要かもしれない。

- ・私たちのところでは3分の1くらいの技術者は普通高校で、うちにきてから資格を取らせているため、少々の現場であれば高校卒業からでも時間はかかるができる。
- ・企業として生きていくために必要な経費はある。人一人を育成する期間は土木や大学を出てない場合、ゼロからスタートするので、時間はかかる。技術を取得するための、国家資格を取得するための経費を一部見てもらうとか、補助が出るとかという施策もあっていいのかと思う。
厚労省の支援で会社に勤めている方を学校に入れるということで、給料等を払わなければならないけれども、それに対する支援はあると聞いている。このプランの中には、厚労省とかの支援制度についても情報を集約して皆様方が使いやすくなる形で情報を発信していきたいという部分と、そういうところの対象にならないような部分で札幌市でも何か支援制度を新たに作っていくということを今後やっていきたい。
- ・私の知り合いの息子がニートから一念発起し、雇用保険の関係で職業訓練に1年通えるという制度を利用して、12月くらいに電気の国家資格の試験を受けると言っていた。会社に入った中でというのは難しい場合もあると思うが、資格という点ではそういう制度をもっと広く知られるとそういう子たちの就職にもつながるし、資格も取ってきてもらえると思った。そういうところから入ってきた方はいらっしゃるか。
- ・オペレーターの資格は他業界でとってきているという人もいと聞いている。
- ・重機は取りやすいので確かに多い。重機メーカーがしていて、厚労省の補助金も場合によっては取れるものがある。経営力向上計画を作れとか面倒だが、色々技術とか、場合によっては技術者・技能者も厚労省の補助金もらえることはある。
- ・働き方の改革は年齢や体力に合った、壮年期というか若いときにいっぱい収入をもらえるということにやりがいを見出すのが本当の働き方改革ではないか。それを一律に週休2日という風にするのはどうかというのが私の意見で、日本は定年制で賃金が上昇していくわけだが、いっぱい働いている方はそこでお給料を出せないかもしれないけれども、プールしておく制度とか、途中でやめた方にも恩恵があるような形のものをと思う。

<多様な入札制度について>

- ・会員に対してアンケート調査をしたところ、技術職員の年齢構成を分類すると、20代が14.8%、30代が13%、40代が31.3%、50代が25.7%、60歳以上が15.0%になり、年代的には圧倒的に40代50代が多くて、20代30代が少ない構成になっている。
- ・若者あるいは女性職員の採用はコンサルタント側の実態としても大きな問題なので、取り組みはぜひ積極的に進めていただきたい。その中で、一つはコンサル業界も魅力ある業界だとなるには、経営が安定化していることが必要で、それには建設事業予算の確保が大事である。もう一つは入札制度について、努力したことが見返りとしてつながってくるのが入札制度として必要だが、札幌市の場合の問題はくじ引き入札が多いので、そこをどう改善するかが、企業者側から見ての問題だと思う。
- ・活性化なので未来志向に向けてという議論は当然だが、一方で戦力を確保するという意味で言うと50代、60代のシニアを戦力として活用する仕組みを企業として考えていかないといけない。新しい人を取り込むのは第1条件で頑張らないといけない。一方で50代とかシニアの方々をどのように企業内で有効活用するかという仕組みを考えていかないとお実態上の戦力を確保す

る意味では難しい。当然未来志向の取組みと現状の人材の活用をいかに行うかをあわせながら考えていかないと難しいと思う。

- ・入札について、今年もやはり同じようにくじが多かったのか？

くじ引きを回避する一番効果的な方策としては、いわゆる総合評価落札方式。昨年度工事において総合評価落札方式を増やした結果、対前年度、一昨年と比較して4ポイントくらい、くじ引きの発生率は落ちているが、依然として一定程度のくじ引きが発生している。今年度8月から設計においても総合評価落札方式を導入し、今現在6本発注して総合評価落札方式でやったものについてはくじ引きは出ていない。まだ全体に占める発注数が少ないので、年トータルの設計におけるくじ引きの発生率をどのくらい押し下げるかというのは未知数という状況。

- ・くじ引きは力のある人が入れなくなるのでできるだけ避けていただければという思いがある。・入札時に、女性を採用した会社には成果を反映する（ポイント制で入札の札数を増やす）やり方はどうか。道庁の建設プランもあったのだけれども、女性の活躍とお題目では並べてあるが、具体的にどうかと言えば、女性専用トイレを作った以外に成果はなかったということがあったので、どこかに成果がフィードバックできるような制度にしなければならないのではないかと思います。

非常に面白いとは思いますが、私どもも道庁もそうだが、いわゆる公契連モデルがあり、契約制度の基本は国の発注部局で決められているモデルに基づいてその中で若干のそれぞれの自治体の特殊性を出すという形になっている。

- ・札幌市ほどくじ引きが発生している自治体もない状況。

初回の委員会でもお話しさせていただいたが、札幌市でくじ引きが多い環境はご理解いただいていると思う。ご提案の策については、色々な工夫をしてほしいということと捉えている。

- ・総合評価まで行かなくても、女性を活用している企業が有利になるような仕掛けは何かできないかという話だと思う。女性活躍対象工事とかそういうやり方もあるかもしれない。

企業の方々はどう思われるか。

- ・なかなか一足飛びにそこまで行くのは難しいかもしれない。

多様な入札方式、全部が総合評価になってもだめであるし、全部が一般競争入札になってもだめだと思うので、例えば除雪に携わっている業者に特化した工事の発注もやっているの、今言ったようなご意見も踏まえて、いかに多様な入札・発注をするかということが大事ではないかと思っている。女性活躍の視点については総合評価の加点要素には加えているけれども、そのほかにどういうことができるかというのは考えさせていただきたいと思う。現実的には難しいところもあるので、検討させていただければと思う。

- ・女性活躍でポイントという話が出ているが、魅力ある産業に生まれ変わっていくためには男性にとっても魅力がないといけないわけで、全体としてはワークライフバランスがちゃんとしているところを評価してもらおう方が、若い子に対してもいいのかなと。そういう意味では業界の方でも内部で改革をしなければならないところも出てくるかと思う。

<適正な予定価格の設定について>

- ・女性に入ってもらうためにどうこうするというのではなくて、建設業が魅力ある業界だと見て

もらうために、今までは男性社会だったので女性も働きやすくするという形。女性を特別視するのではなく、企業の面接でも履歴書で男性女性を登録しなくてもいいとか、学校もそれを聞いてはいけないという時代になっているので、あまり垣根は考えずに女性にとっても働きやすい、一般的に魅力ある職場、業界というレベルのお話をした方がいいと思う。

- ・そのためには業界の仕事の特性もあるので、事務所の中で働く方もいれば、屋外や夜働く方もいる。そういう厳しい環境の仕事にはそれなりのリターンがないと、決して魅力的には映らない。色々PRをしても中身が魅力じゃないと謳えないと思う。
- ・そういう意味では札幌市の予算を明示していただいたり、下請けまでいきわたる配慮をいただいたりしているが、部会でも意見があったように、落札率は大事なかなと思っている。そこら辺を担保する、最低制限価格や色々な入札制度を含めた制度や運用のあり方を見直す形のものも一文入った方がいいと思う。

最低制限価格は、「施策 5-1 適正な予定価格の設定」に文言を入れている。前段では現場の実態等に即した適正な積算を行うとしており、それとともにということで、工事等の落札率の推移を見極めること、国や他の自治体の動向、また公共工事等に從事される方の賃金をはじめとする労働環境、事業者の皆様の経営関係の状況を踏まえたうえで、最低制限設定の見直しを図るといふ文言を入れている。市民の税金を預かって事業を実施しているので、無条件で上げるということではなく、色々な状況を踏まえてということで明記をしている。

- ・総合評価等の部分の記述もあるが、このプランに掲げられていることを企業が実際に取り組もうとすると、それなりのコストがかかってくるのでそれが価格競争の中では取り組みれば取り組みほど負けてしまう形にならないような配慮をしてもらえればと思う。
- ・何故かと言うと、他の業界では新しく入った方を2~3ヶ月研修して育てて現場に送り出すというのが容易だが、建設業はそのあたりが特殊で、人を抱えること自体が難しい。それを現場に出るまで育てて、ある程度先行投資をする余力も企業にはないという現状。その辺をうまく回していけるような受発注や施工管理ができればいいと思う。
- ・昔から技術と経営に優れた建設企業が伸びていく市場環境だけれども、それに加えて将来に向けた積極的な取り組みをしている企業が伸びる環境を作っていくということが、今求められていると思うので、そういう発想でなるべく描いていただきたい。

< 下請契約の適正化及び技能労働者の処遇改善について >

- ・(3)- に「今後も下請け企業へのしわ寄せ」がという言葉があるが、週休2日にすると日給月給制の人は所得が減る危険性があるという話をずいぶんしたけれども、それを「しわ寄せ」という表現は妥当かなと思う。
- ・「下請け」という言葉遣いであるが、下請けの意味は元請けがあって下請け。そういう契約上の分類で、その他にはゼネコンと専門工事業者、その分類もある。そこを場所によって使い分けした方がいい場面があるかなと思った。専門工事業と書くべきところが下請けと書いている面が若干あるかもしれない。その辺要注意して見ていただいたほうがいいかもしれない。
- ・札幌市の建設産業活性化プラン検討委員会ということで建設産業の今後の担い手が非常に懸念されるということでテコ入れを図らなければならないというそもそもの目的があったと理解をしている。札幌市にとってのインフラ整備等の担い手は市内の建設に関わる企業で、企業の担

い手はそこで働いていただける人であると理解している。

- ・建設だけではなく色々な産業間で人材不足が叫ばれていて、業界間で奪い合いの様相を呈している。その中で、企業規模が小さくなるにしたがって、今の経営のやり方や現状を変えるのは非常に難しいと実感しているが、そう言っていると、業界間での人材の奪い合いに建設が負けてしまうという懸念も感じる。
- ・札幌市でこのように色々な取組のメニューを示したり話を聞いたりして、後押ししよう、市も変わろうとしている中で、業界の方々もこれはできないというのではなく何かできることに取り組んでいただけるようなスタンスを持たないといけない。
- ・札幌市の建設業界、中小企業は、札幌市で今の予算を継続してもらうのが最低条件であれば、満たしてもらっているのかなと思う。今度の新しいプランの中でもある程度予算を確保してもらっている。それが減るようであれば、大変なことになるかもしれないが、今の状況であれば人材も不足している中でなんとかやりくりできているのが現状。今後5年、10年後がすごく心配で、今いる人間のうち10年たてば3分の1の方が退職するだろう。シニアにがんばってもらい意見もあったが、限度があると思うので、その辺を考えていただいて、できるだけ速やかに、早急に実施していただければありがたいと思う。

< i-Construction の推進について >

- ・生産性の向上は、基本理念にも書かれていますし、市のご協力を得ながらやっていかなければならないテーマであるけれども、BIM/CIMのところについてはもう少し業界等、特に電気設備は遅れているかもしれないため、ご指導いただきたい。

(4) 閉会

次回は12月12日木曜日の午後に最終回として予定している。今回いただいた意見を踏まえて、資料の修正、今回間に合っていない部分も作成して素案という形で次回示したい。

以上